

山形県東田川郡三川町方言の副助詞

佐藤 亮一

I. はじめに

1. 調査対象地：山形県庄内地方、庄内平野の中心部に位置し、北は酒田市、南は鶴岡市に接している。交通は三川町の中心部まで、鶴岡市または酒田市からバスで15分程度。農業を主業とし、庄内米（ササニシキ）の産地として知られる。人口は1957世帯、8086人（1998年3月31日現在）。
2. 調査年月日：1998年3月27日 午後1時15分～2時45分
3. 話者：佐藤武夫氏（男性。1948年三川町土口字御蔵下生まれ。49歳。外住歴なし）。話者は中年層であるが、『みかわの方言』という方言集の著者であり、三川町方言研究会会長でもある、伝統的な三川町方言（高年層の用いる方言）にも通じている。内省力に優れ、文法的な項目に関しては適切な話者であると考えられる。
4. 調査者・調査場所：調査者は佐藤亮一。調査場所は東京女子大学言語文化学科談話室。
5. 調査方法 統一調査票による面接調査。
6. その他：①「ス」はシとス、「ズ」はジとズ、「ツ」はチとツの、それぞれの中間的な音声（中舌音）を、「ガ」「ギ」「グ」「ゲ」「ゴ」は鼻濁音を表す。
②アクセントは、高く発音された部分に線を引いた。なお、「ス」は文末のイントネーションで、上昇調（1拍内部で低から高に上昇）を表す。
③（ ）内は話者の発言、< >内は調査者による注記である。

II. 調査結果

（1）添加・例示・提題などをあらわすもの

A 添加

1. 雨だけでなく風さえ吹いてきた。 ○ア^メバ^ッカ^リデ ^ネグ カ^ジエ^モ フ^イデ ^キタ。
2. 今年は豊作で、米ばかりか麦もよくとれた。 ○コ^ドス^ワ ホ^ーサ^グデ ^コメ^バッ^カリ^デ ^ネグ ^ムギ^モ イ^ッベ ^トレ^ダ。

B 予想外の事実

3. 小学生でさえ簡単にワープロを使っている。 ○ショ^ーガ^グセ^ーデ^モ ジョ^ーサ^ネグ
ワー^プロ ッ^カッ^テル。

4. (宝くじが) 当たると思っていなかっただけにうれしい。 ○アダッド オモッテ
ネガッタサゲ サイコー オモシエ。(「ダケ」は使わない。「サイコー オモ
シエ。」は「スゴク オモシエ」とも言う)

C. 条件

5. 暇さえあれば釣りに行っている。 ○ヒマ アレバ ツリサ イッテル。(「ヒマサ
エ アレバ」と言う共通語的。「サエ」は使わない)

D. 例示

6. まあお茶でも飲んでください。 ○マズ オチャデモ アンデッテ クレ。
7. みやげにはこのまんじゅうなどどうかな。 ○ミヤゲダバ コノ マンジューダガス
ドーデロ。
8. 思わず跳び上がるほど嬉しかった。 ○オモワズ テンジョサ ツグホド オモシエ
ガッタ。
9. まさかあなたにまで話が行くとは思わなかった。 ○マサガ ワーマデ ハナス イ
グドワ オモワネッケ。(「ワーマデ」は「ワースマデ」とも言う)
10. なぐるやら蹴るやらの乱暴をはたらいた。 ○ナグッタリ ケッタリ スタ。(こ
の文脈では「乱暴」は使わない)
11. 私になり相談してくれれば良かったのに。 ○オレサダカス ソーダンシェバ イ
ガッタナヤ。
12. 野菜なんていくらでもできる。 ○ヤサイダバ ナンボデモ デキル。

一対の語の例示

13. しょうゆだってみそだっつくっていたんだ。 ○ショーユダッテ ミソダッテ
ミンナ ツグッタナダ。

択一

14. 私なり弟なりがお手伝いに行きます。 ○オレドガ オドードガ テツダイサイ
イダ。

例外でない

15. 村長とて、そうするより仕方なかったんだらう。 ○ソンチョーダッテ ソース
ルスガ ドモ ナンネガッタヤ。

列举

16. 春らしくなって、梅も桜も一度に咲いた。 ○ハルラスグ ナッデ ウメモ サグ
ラモ イッショ サイダ。

同類の暗示

17. テレビもそろそろ買い買えよう。 ○テレビモ ダンダイ トッケロ。

やわらげ

18. まあお茶でも飲んでください。 ○6に同じ。

E. 包括

19. 盆には子や孫などが帰ってくる。 ○ボンナッド コドモダズヤ マゴダガス ケ
ッテクル。

F. 提題

20. ゲートボールだってできるよ。 ○ゲートボールモ サエッゼ。

話題にあげる。

21. 何だい、いいことって。 ①ナニヤ イーゴドッテ。 / ②ナンダデー イーゴド
デーッテ。

極端なものの提示

22. そんなこと子どもにでもできるよ。 ①ソゲダゴド コドモダッテ デキッゼ。 /
②ソゲダゴド コドモモ サエッゼ。

23. 食べることくらいは何とかしたい。 ○クーゴドグレワ ナンダガ スネマネゼ。

24. 名前すらろくに覚えていない。 ○ナンメーモ ロクダ オボエデネ。

25. 弁当代に千円もかかった。 ○ベントデサ センエンモ カガッタ。

軽いものをあげる。

26. これさえあればもう大丈夫だ。 ○コレ アレバ スンベネ。(「サエ」は使わな
い)

(2) 分量・程度・基準などをあらわすもの

G. 分量・程度

27. 旅行で三日ほど家をあけた。 ①リョコーデ ミッカグレ イエ アゲダ。 / ②
リョコー イッテ ミッカグレ イエ アゲダ。

28. 茶碗に半分くらいください。 ○チャワンサ ハンブングレ クレ。

29. 子供にでもわかるくらいのやさしい本だ。 ○コドモデモ ワガルグレ ジョーサ
ネ ホンダ。

30. 一週間ばかり留守にするので頼むよ。 ○イッシユカンホド ルス スッサゲ タ
ム。

H. 基準

31. 今年の寒さは去年ほどではない。 ○コドスノ サムサワ キョネンミテンデワ
ネ。

I. 理由

32. ちょっと油断したばかりにとんでもないことになった。 ○チョット ユダンスタ
バ トンデモネゴド ナダ。

J. 「それにふさわしく」

33. 苦労しただけあって人間ができています。 ○クロー スタダケ アッデ ニンゲン

デキテルア。

形式名詞的用法

34. 毎日孫の守りなんかで忙しい。○マイニズ マゴノ コモリダガステ イソガス。

「それこそ」

35. それこそバケツをひっくりかえしたような大雨だ。○ソレゴソ バケツ マガス
ダヨダ オーアメダ。

「～ばかりか」

36. 父ばかりか母もスポーツ好きだ。○オヤズバッカリデ ネグ カーチャンモ ス
ポーツズキダ。

K. 今にも行われる。

37. もう食べるばかりにしてある。○スグ カエルヨニ ナッタ。

動作の完了直後

38. 今、仕事から帰ったばかりだ。○イマ スゴトガラ ケテキタ バッカリダ。

基準

39. 駅までもうちょっとだ。○エギマデワ モーツコスダ。

L. 等量の反復

40. 一人ずつ呼んで話をした。○ヒトリズツ ヨバテ ハナス スタ。

M. 等量の配分

41. 一人に二個ずつみかんをやる。○ヒトリサ フタズツ ミカン ヤル。

(3) 限定・限界などをあらわすもの

N. 限定

42. 酒はたまにしかのまない。○サゲダバ タマニスカ ノマネ。

43. 今朝は寝坊をしてパンだけ食べて来た。○ケサ ネボ コイデ バンダゲ クテ
キタ。

44. そんなに勉強ばかりしていると体に毒だよ。○ソゲ ベンキョーバッカリ ステッ
ド カラダサ ドグダゾ。

45. うちの田が残っているきりで、よそは全部終わった。①オライノ タバッカリ
ノゴツテ ホカネワ ミナ オワタ。/②<誘導>オライノ タ ノゴツタダゲ
デ<以下同じ> (②はやや不自然)

O. 強調

46. もうこれだけしかないよ。○アド コレガット ネ。

47. 今年こそいい年にしたい。○コッドスゴソ イー トス ステナ。

P. 限界

48. これだけ言っても分からないのか! ○コレダケ イテモ ワガンネガチ。

49. 二千元くらいまでなら何とかなる。 ○ニセンエン^グレ^マデ^ダバ ナ^ント^ガ ナ^ル。

(4) 陳述的なもの

Q. 「～ば～だけ」

50. 肥料をやればやるだけよく育つ。 ○コエ^ドゴ ヤ^レバ ヤ^ルダ^デ ヨ^グ ソ^ダズ
ス。

「仮定形・ば・こそ」

51. 心配すればこそ言うんだ。 ○スン^ベ ス^ッタ^サゲ ユ^ーナ^ダゾ。

「こそ・仮定形」

52. 彼は文句こそ言え、人の言うことなど聞かない。 ○ヤ^ズワ モ^ンク^ダバ ユ^ード
モ ヒ^トノ ユ^ーゴ^ドナ^ン キ^ガネ。

53. 「～でこそあれ<コサレ>」という言い方はありますか。 ○なし

「未然形・ば・こそ」

54. 押しても引いても動かばこそ。 ①オス^テモ ヒ^ーテ^モ ウ^ゴガ^ネヤ。 / ②オス^テ
モ ヒ^ーテ^モ ウ^ゴゴ^バヤ。 <「ウゴゴバヤ」は反語表現で「動くものか」の意
>

「～こそ。」

55. 失礼なことを言わないでこそ。 ○調査不能（調査文の意味を話者も調査者も理解
できなかった）

「～こそ～が」

56. 今でこそ家から出ないが、昔はよく出歩いていた。 ○イ^マデ^ゴソ イ^エガ^ラ デ
ハン^ネド^モ ム^ガス^ワ ヨ^グ デ^ハタ^モン^ダ。（「イマデゴソ」は「イマゴソ」
とも言う）

「～ば～ほど」

57. 働けば働くほどもうかる。 ○カ^シエ^ダバ カ^シエ^グホ^ド モ^ーガ^ル。

R. 打ち消しとの呼応

58. 村長に聞くまでもないことだ。 ○ソ^ンチ^{ョー}サ キ^グマ^デモ ネ^ゴド^ダス。

否定との呼応

59. 朝から忙しくて昼飯も食えない。 ○ア^サマ^ガラ イ^ソガ^スグ^デ ヒ^ルメ^スモ カ
エ^ネ。

否定的取り上げ

60. こんなものなどいくらでもあるよ。 ○コ^グダ^モノ^ダバ ナ^ンボ^デモ ア^ッゼ^ス。

（「アッゼス」は「アッソス」とも言う）

全面否定

61. 誰だってそんなことを言われたら怒るよ。 ○ダ^エダ^ッテ ソ^グダ^ゴド^イワ^エレ

バ　ゴゲッゼ。

S. 次の動作が不可能

62. 10年前に故郷を離れたきり、一度も帰っていない。○ジューネンマ　イエガラ
デハッタキリ　イッカイモ　ケッテネ。

(5) モダリティー的なもの

T. 不確かな気持ち

63. いつのまにやら眠ってしまった。イズノゴマエ　ネブデスマッタ。(「イズノゴマ
エ」は「いつのまにか」の意)

64. 何のことか分からない。ナンノゴンダガ　ワガラネ。

推定

65. 後で遊びに行くかもしれない。○アドデ　アソピサ　イグガモヤ。

どちらか分からない。

66. 来るのやら来ないのやらよく分からない。○クンナンガ　コネナンガ　ヨグ　ワ
ガラネ。

はっきり言わない

67. どこやらへ引越したそうだ。①ドサダガ　ヒッコスタドヤ。／②ドゴサモンダ
ガ　ヒッコスタドヤ。／③ドゴデラサ　ヒッコスタド。(「ドゴデラサ」は「ど
こか良く分からない(忘れたが)」というニュアンス)

U. 非難

68. お父さんたら今日も遅いのね。○オトーサンダバ　キョーモ　オツソイア。(「
オトーサン」は「トーチャン」とも言う。また、「オツソイア」は「オツソノス」
とも言う)

69. お父さんてば、子供のようなことを言って。○トーチャンダバ　コドモミデンダ
ゴド　イッテ。

Ⅲ. 総括(まとめ)

以上の調査結果から、次の副助詞が抽出される(括弧内は意味・用法の概略。数字は
その助詞が出現する文例番号)。

① 共通語と同形のもの

カ(疑問、推定、不確かな気持ち)……64. 66. 67

カモ(推定)……65

キリ(次の動作が不可能)……62

グレ(クライ)(提示、程度、分量)……23. 27. 28. 49

コソ(強調)……35. 47. 56

ズツ（等量の反復・配分）…… 40, 41
 ダケ（限定、限界、それにふさわしく）…… 33, 43, 48, 50
 ダッテ（例示、提示、全面否定、否定的なとりあげ）…… 13, 15, 22, 61
 ッテ（提題）…… 21
 デモ（例示、程度）…… 3, 6, 29
 トカ（例示）…… 14
 バッカリ（限定、動作の完了直後）…… 1, 2, 36, 38, 44, 45
 ホド（例示、程度）…… 8, 30, 57
 マデ（例示、限界、基準）…… 9, 39, 49
 マデモ（打ち消しとの呼応）…… 58
 モ（添加、列挙、提示、提題、同類の暗示、否定との呼応）…… 1, 2, 16, 17, 20, 24, 25, 59

② 共通語と別形のもの

ガット（限定）…… 46
 ダカス（例示、包括）…… 7, 11, 19, 34
 ダバ（例示、限定、非難、否定的な取り上げ）…… 12, 42, 52, 60, 68, 69
 デラ（不確かな推量）…… 67

なお、「添加」「条件」「提示」などを表す「サエ」と、「並立」の「ヤラ」は当方言では用いない。（「サエ」については文例1, 3, 5, 7, 26、「ヤラ」については文例10を参照）

（さとう りょういち 東京女子大学）